

北名古屋市における 地域包括ケアモデル事業の取組 (単年度モデル)



つつじきょうだい

北名古屋市福祉部高齢福祉課

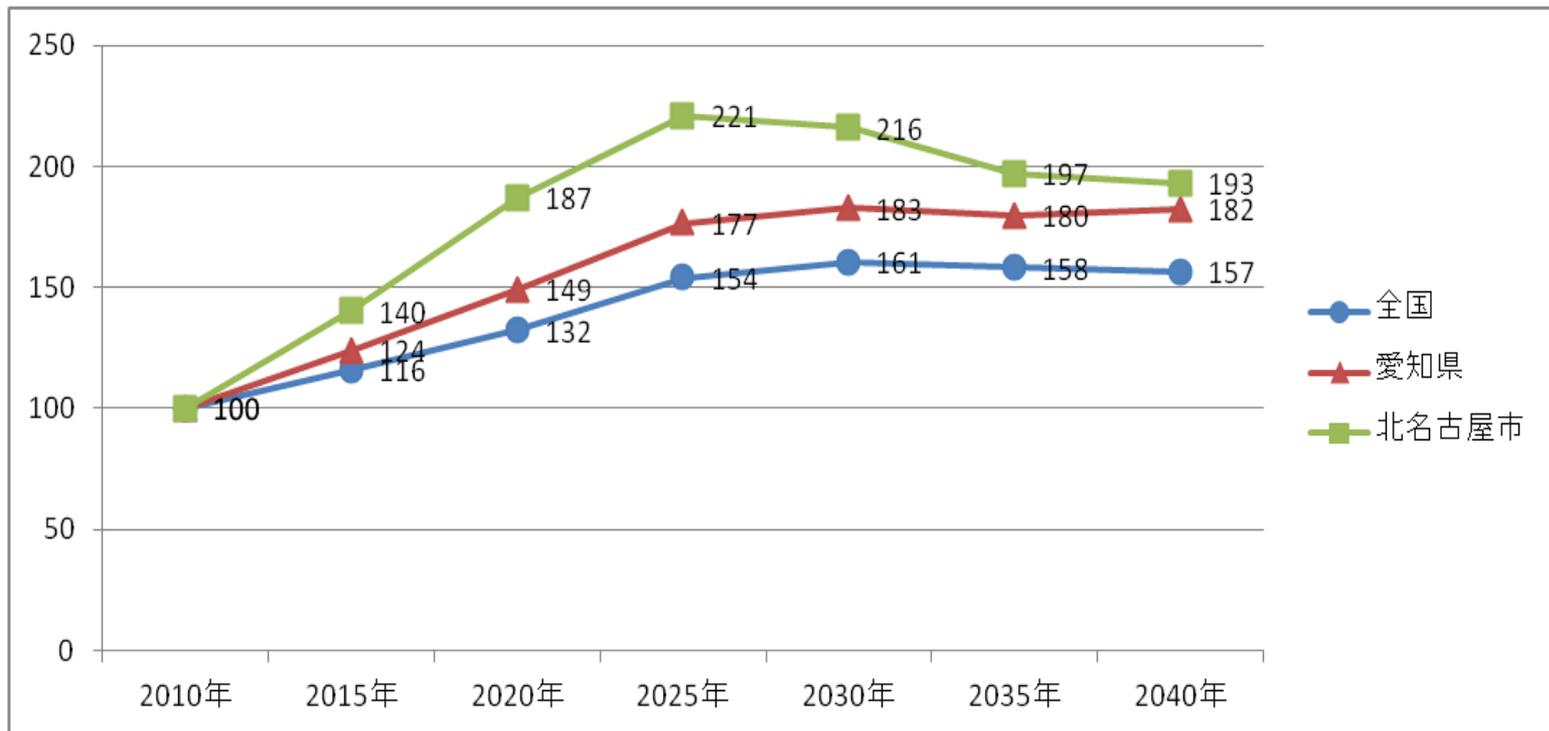
北名古屋市の概要

【総人口】 83,817人 (平成27年2月1日現在)

【65歳以上人口】 19,478人

【高齢化率】 23.2%

75歳以上の高齢者の推移(2010年を100とした場合) 平成25(2013)年3月推計



(出典:国立社会保障人口問題研究所のデータをもとに作成)

【医療機関】 (H27.3月現在)

- ◆医療圏 尾張中部医療圏
西名古屋医師会 (清須市・北名古屋市・豊山町)
- ◆医療機関数 病院 2 (内、在宅療養後方支援病院 1)
診療所 39 (内、在宅療養支援診療所 9)
歯科診療所 34 (内、在宅療養支援歯科診療所 3)
- ◆薬局数 調剤薬局 32
- ◆病床数 (H26.10.1現在)

	総数	一般(%)	療養(%)
北名古屋市	415	215(51.8)	200(48.2)
愛知県	1,574,095	897,703(57.0)	328,195(20.8)

【介護機関数】 (H27.2月現在)

特別養護老人ホーム	2
老人保健施設	2
認知症対応型GH	4
小規模多機能居宅介護	2
居宅介護支援事業所	12
訪問看護ステーション	6
定期巡回・随時対応型訪問看護ステーション	1
短期入所生活介護	5
短期入所療養介護	2
通所介護事業所	16
訪問介護事業所	12
訪問入浴サービス	1
通所リハビリテーション	4

【地域の特性・課題】

【特性】

- (1) 一般病床数に比べ療養病床数が多い
- (2) 一般病床は、近隣市に依存している
- (3) 団塊の世代が多く、2020年頃から急激な高齢化が進む
- (4) 定期巡回・随時対応型訪問看護介護ステーションは、1か所ある

【課題】

- (1) 在宅医療を行う医療機関が少ない
- (2) 急激な高齢化に対応する施策が急務である
- (3) 医師会、歯科医師会、薬剤師会が2市1町にまたがるため、市町間の連携が必要

主な取組状況

1 会議

(1) 地域包括ケアシステム関係機関連絡会議

【目的】 地域包括ケアシステムの構築に向けた課題の解決策の検討、取組みの方向性の確認等を協議

【構成員】

3師会

在宅療養後方支援病院

在宅療養支援診療所

訪問看護ステーション

北名古屋ケアマネ会

介護サービス事業所

社会福祉協議会

民生委員協議会

老人クラブ連合会 保健所



回数	日時	内容
第1回	7月1日(火)	<ul style="list-style-type: none"> • 地域包括ケアシステムの構築に向けて • 北名古屋市の現状 • 各団体の抱える課題
第2回	10月9日(木)	<ul style="list-style-type: none"> • 在宅医療連携協議会の進捗状況報告 • 課題について意見交換
第3回	平成27年 3月12日(木)	<ul style="list-style-type: none"> • 在宅医療連携協議会の進捗状況報告 • モデル事業の事業報告 • 次年度に向けて

1 会議

(2) 在宅医療連携協議会

【目的】

地域で在宅医療を推進するための抽出、解決の検討及び、ICT導入、活用に向けた検討

【構成員】

3師会

在宅療養後方支援病院

北名古屋ケアマネ会

保健所

オブザーバー：在宅療養支援診療所

訪問看護ステーション

介護サービス事業所

回数	日時	内容
第1回	7月25日(金)	<ul style="list-style-type: none"> • 地域包括ケアシステムの構築 • 北名古屋市の現状 • ICT「電子@連絡帳」について • これからの取り組み
第2回	9月 2日(火)	<ul style="list-style-type: none"> • 顔の見える関係づくり • ICT「電子@連絡帳」の運用事務 • ICT「電子@連絡帳」の名称 • モデルケースの選出
第3回	平成27年 1月14日(水)	<ul style="list-style-type: none"> • モデルケース運用状況 • 今後の運用
第4回	2月24日(火)	<ul style="list-style-type: none"> • ICT「電子@連絡帳」運用状況 • 協議会事業実績のまとめ • 次年度に向けて

2 多職種連携研修会

目的：各職種の理解と顔の見える関係づくりを推進する

(1) 歯科医師・ケアマネ連携研修会

【日時】平成26年8月21日（木）

【参加者数】38人

【内容】

①職種紹介

「西春日井歯科医師会訪問歯科診療（口腔管理・口腔ケア）」

発表者 西春日井歯科医師会 専務理事 深尾裕和 氏

「ケアマネジャーとケアマネジメント」

発表者 北名古屋市ケアマネ会 会長 真野信子 氏

②グループワーク

「テーマ：在宅療養の食べることを支える多職種連携」

～歯科医療と介護の連携に着目して～

2 多職種連携研修会

(2) 講演会と交流会

【日時】平成26年12月13日（土）

【参加者数】53人（医師、歯科医師、薬剤師、ケアマネジャー等）

【内容】

①講演

「地域包括ケアシステムとは

～これからの医療はどう変わるのか～」

講師 福井県医師会 副会長

医療法人池慶会池端病院

理事長兼院長 池端幸彦 氏

②交流会

「顔の見える関係づくりって？」

ワールドカフェを実施



2 多職種連携研修会

(3) 研修会企画のためのツールの学習

【日時】平成27年2月27日（金）

【参加者数】26人

（居宅介護支援事業所、保健所、他市町職員）

【内容】

講義と体験

「ワールド・カフェとは？」

講師 国立長寿医療研究センター

在宅連携医療部 国井由生子 氏



3 ICT「電子@連絡帳」のデモ体験

【目的】 ICTを実際に体験し、今後の導入・運用の参考とする

【期間】 平成26年11月～平成27年3月

【システム】 電子@連絡帳

【愛称】 「北名古屋レインボーネット」

【モデルケース】

- | | | | | |
|-----|--------|------|-----|------|
| (1) | 95歳・女性 | 要介護5 | 脳梗塞 | 喘息 |
| (2) | 74歳・女性 | 要介護5 | 脳出血 | |
| (3) | 69歳・男性 | 要介護4 | 糖尿病 | 脳幹出血 |

※いずれも往診あり

3 ICT「電子@連絡帳」のデモ体験

【利用状況】平成27年2月末現在

- ◆発言数 56回
- ◆登録者数 35人
- ◆登録事業所 23事業所
 - 行政 1
 - 医師等 4
 - 歯科等 3
 - 薬剤師等 1
 - 訪問看護 1
 - ケアマネジャー 4
 - 介護等 9

ICT説明会



【ICT活用の具体例】

2014年11月28日 17時30分 作成

記載者: ケアマネ (Cm : 居宅介護支援事業所〇〇) 最終更新日時: 2014年11月28日 17時30分

〇〇歯科さんに連絡しました。12月から訪問開始になりますが、詳しい日時はご家族と、月曜日以降にご相談することです。よろしくお願いします。

2014年11月28日 17時37分 作成

記載者: 看護師 (Ns : 訪問看護ステーション〇〇) 最終更新日時: 2014年11月28日 18時33分

本日訪問看護にてポートの針交換しました。ご主人様、新しい輸液バッグの扱いにも慣れた様子でした。

【衛生材料: 滅菌パックのYカットガーゼをお願いします。輸液セットのみ、交換したので、1つ不足となりました。】

退院直後は、10秒程度の呼吸休止がありました。今日は休止もなく、穏やかな呼吸でした。

本人から、「車椅子に乗りたい」との発言があり、ケアマネージャーさんとも相談し、先生にお伺いしてから進めていこうなっています。次回訪問診療時にお話があると思います。

膀胱カテーテルは、浮遊物が多く、トラブルも多いですが、その都度、〇〇先生に対応していただいています。

週2回のイソジン生食での膀胱洗浄を訪問看護で実施し、本日は尿流出良好でした。発熱もありません。

排便が1週間みられていません。肛門内にも降りてきていません。

入院中に処方の方のキゾベロンが1本ありました。訪問看護日に合わせて使用を試みてみます。

訪看〇〇 〇〇

2014年12月02日 08時54分 作成

記載者:看護師 (Ns : ○○クリニック) 最終更新日時:2014年12月02日 08時54分

車椅子の件、移動に気をつけながらOKとなりました。

無理をしない範囲で・・・。

左腕ですが、前腕～手背の浮腫・発赤みられました。

三角巾の端で圧迫され、循環不良も考えられたため、一度三角巾を解除してもらい

様子を見てもらうようお嫁さんに伝えました。

良くならないようであれば、他の原因を考えなければと思います。

切り込みガーゼお届けしました。

次回、訪問予定は12月15日予定です。

2014年12月04日 08時40分 作成

記載者:ケアマネ (Cm : 居宅介護支援事業所○○) 最終更新日時:2014年12月04日 08時40分

○○歯科様の訪問日時は10日(水)13:00ごろだそうです。

車いすを手配しました。よろしくお願ひします。

2014年12月05日 17時35分 作成

記載者:看護師(Ns:訪問看護ステーション〇〇)最終更新日時:2014年12月05日 17時35分

本日、車椅子に乗ってみました。

ご主人、お嫁様と看護師の三人でリフトを使い、車椅子へ移りました。

110度くらいの角度で座位を保持し、腰痛の訴えはありませんでした。

左腕は座位時は保持したほうがよさそうなので、次回からは座位の時のみ

三角巾を使うようお話ししました。

PEG周囲に肉芽が出来ており、痛みがあるようです。

お手持ちのエキザルベを塗布しました。

手掌、腋窩に皮膚めくれがみられ、抗真菌軟膏をご主人が塗布して下さっており、

改善傾向です。

画像添付してみます

訪看 〇〇



【委員やモデル体験参加者の意見】

◆メリット

- (1) 情報を早く共有できる
- (2) 多職種がチームとして情報を共有・連携できる
- (3) 記録として残るため振り返りができる
- (4) 画像等の添付ができ、正確に伝えることができる
- (5) 携帯電話へのアラートが助かる
- (6) ターミナルや困難ケースへの対応がしやすくなる
- (7) 時間、場所に捉われず意見交換ができる
- (8) 医師等連絡が取りにくい場合に活用しやすい

◆デメリット

- (1) 件数が少ない場合はよいが、多くなると負担になる
- (2) 利用者の個人情報の流出はしないか
- (3) 支援経過の入力と二度手間になる
- (4) 浸透するのに時間がかかる
- (5) こまめにアクセスしなければならない

◆今後の活用法

- (1) 市外の施設とも連絡がとれるとよい
- (2) 独居の認知症高齢者に対し、情報連携として用いる
- (3) 病診連携、認知症連携シート等の活用
- (4) 勉強会のお知らせ、市からの情報連絡等

4 市民への啓発

目的：市民が在宅医療に関心をもつ機会をつくる

(1) 市民向け講演会とミニシンポジウム

【日時】平成26年12月 5日（金）

【参加者数】189人（一般市民、民生委員、老人クラブ）

【内容】

①講演会

北名古屋市の現状について報告

「住み慣れた我が家で最期まで過ごすには」

講師 国立長寿医療研究センター

在宅連携医療部長 三浦久幸 氏

②シンポジウム

「在宅医療・介護を支えた経験報告」

座長 国立長寿医療研究センター

在宅連携医療部長 三浦久幸 氏

シンポジスト

在宅で看取りを行った家族

ケアマネジャー

訪問介護・看護ステーション 看護師

在宅療養支援診療所



(2) アンケート結果

①第6期介護保険事業計画・高齢者計画策定時の在宅医療 関連内容のアンケートから

回答者：2,246人

◆在宅医療について知っているか？

はい 984人(43.8%)

いいえ 629人(23.6%)

◆脳卒中の後遺症やがん等で長期の治療が必要となった場合、 在宅医療を希望するか？

希望する 451人(20.1%)

希望するが実現は難しいと思う 641人(37.4%)

★難しい理由⇒家族に負担をかける、経済的負担が大きい等

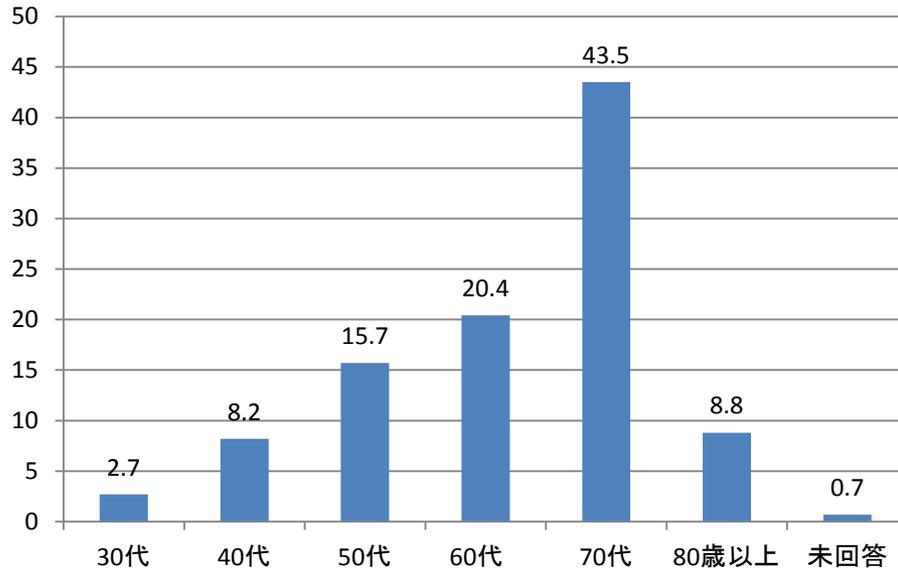
◆あなたは、どこで最期をむかえたいと思うか？

自宅 1,021人(45.5%)

わからない 578人(25.7%)

②講演会とシンポジウム終了後アンケートから（抜粋）

参加者の年齢別割合



今後、在宅医療を推進していくことは必要ですか

	人数	%
大変必要	54	36.7
必要	88	59.9
あまり必要ない	1	0.7
必要ない	0	0
未回答	4	2.7
全体	147	100

<ご意見>

- 何年か前までは、当たり前前に在宅でした。自分の家族は、家族で看るのはあたりまえのことでは！
- 私達も自宅で終わりました。とても自然でみんなが安心しました。
- このような機会を大字単位で計画し実施されてはと思う。
- 看取りについての本の紹介等あったらよかった。
- いろいろな方との連携で支えられていることもわかりました。
- もっと市民に広報が必要と思う。

5 先進地視察

目的：先進的事業を行っている地域の取組を学び、今後の施策に生かす

【日 時】平成26年5月27日（火）

【視察先】津島市「つながろまい津島ICTワーキング」

【視察者】地域包括支援センター職員、保健所職員

【日 時】平成26年6月25日（水）

【視察先】津島市「津島市在宅医療連携推進協議会」

【視察者】地域包括支援センター職員、保健所職員

【日 時】平成26年10月1日（水）

【視察先】 ア：千葉県柏市（柏地域医療センター）

イ：東京都国立市（国立市役所 高齢者支援課）

【視察者】医師会代表（済衆館病院 理事長）、市役所 等

【内 容】ア：千葉県柏市 ・豊四季台プロジェクトについて

・在宅医療の普及について

・在宅医療を推進するための取組

イ：東京都国立市 ・在宅医療推進事業について

・認知症事業、認知症初期集中支援チーム

・国立市地域見守りネットワークについて 等

6 成果と課題

1年後の目標:

- (1) 多職種が顔の見える関係づくりができる場がある
- (2) 在宅医療と介護連携ツールとしてICT（電子@連絡帳）の活用を開始
- (3) 在宅医療において市民の関心が高まる

成果

会議

- ・関係機関連絡会議
- ・在宅医療連携協議会

- ・市民や多職種の人が意見交換できる場が位置づけられた
- ・各職種間の仕事内容が理解ができた

研修

- ・多職種連携研修会

- ・第一段階、顔がわかる関係づくりができた
- ・ワールドカフェの手法を使い参加しやすい研修の場を提供できた

ICT

(電子@連絡帳)

- ・ICTの体験を通じ、メリット・デメリットが確認でき、今後の方向性を決めるうえで参考となった
- ・各職種間において今後必要であるという認識が統一できた

課題

- ・医師会単位で検討していく必要があるため近隣市町で調整が必須である
- ・会議の日程調整が難しい

- ・医師、薬剤師の参加が少ない
- ・多職種連携を推進していく上で各職種の役割を整理していく
- ・介護職を対象とした医療関係の研修会を開催していく

- ・現実に即した運用ルールを決める必要がある
- ・在宅医療を行う医師の参加数の増加を図る

成果

課題

市民への啓発

- ・講演会やミニシンポジウムに参加した市民の在宅医療への関心が高まった
- ・参加者のアンケート結果を踏まえ市民の意向を知ることができた

- ・身近な情報、社会資源情報などを掲載したガイドブックやパンフレットの作成が必要
- ・市民を対象とした講演会やシンポジウムなどを開催するとともに広報、ホームページなど活用し普及啓発を行っていく

【まとめ】

成果

- ◆顔の見える関係づくりの第一歩が踏み出せた
- ◆ICTの体験を通じ、導入に向けた意見交換が行えた
- ◆在宅医療について市民(高齢者)の関心は高まりつつある

課題

- 地域資源の把握を十分にすることが必要である
- 会議だけでは具体的な検討はできないのでワーキング部会などが必要である

取組状況に関する連携機関の感想

【西名古屋医師会】

在宅医療の提供を含む包括ケアシステムを日常生活圏域の中でこれまでの生活との継続性をもって実現するためには、各々のかかりつけ医がその力を在宅医療の分野で十分に発揮することが重要であり、多くのかかりつけ医の参画を得られるよう、2市1町が足並みをそろえて医師会等と協働することにより、面的な提供体制を整えることが必要です。

西名古屋医師会は来年度、新規事業として医師会主導の在宅医療サポートセンター事業を計画し、当医療圏内での在宅医療を一層充実し、地域包括ケアシステムのさらなる充実を図るべく、実行する。

(医師会長からのメッセージ)

今後に向けての対応、取組

- モデル事業終了後も地域包括ケアシステム関係機関連絡会議、在宅医療連携協議会や多職種研修等は継続し、引き続き開催していく
- 医師会主導の在宅医療サポートセンターとの連携を図りながら地域の体制を整備していく
- 2市1町(清須市、北名古屋市、豊山町)の連携を図るため、定期的に検討会を実施していく
- 市民が活用できる相談窓口や地域の情報を掲載した在宅医療、看取りに関するリーフレットを訪問看護ステーション等関係機関とともに作成する

これからシステムに取り組む市町村への提言

- まずはやってみる
- 協議会、連絡会など要綱・条例で定めることにより、行政側のモチベーションを高める
- 多職種が集まって話せる場をつくる
- 形にとらわれず、顔をあわせる機会を多く持つ(顔見知りになる)

《問い合わせ先》

北名古屋市福祉部高齢福祉課(地域包括支援センター) 江口、岡島、肥田

電話 0568-22-1111 e-mail :korei@city.kitanagoya.lg.jp

北名古屋市熊之庄御榊60番地